

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2007～2010

課題番号：19202005

研究課題名(和文)「生活場所(ビオトープ)」の美学——自然・環境・美的文化

研究課題名(英文) The Aesthetics of Biotope' : Nature, Environment, Aesthetic Culture

研究代表者 西村 清和 (NISHIMURA KIYOKAZU)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号：50108114

研究成果の概要(和文)：本研究は従来自然美論、風景論、環境美学、都市美学という評語のもとで考えられてきたさまざまな具体的、個別的諸問題領域を、日常生活の場において企てられたさまざまな美的実践としてとらえなおし、あらたな理論化を目指すものである。具体的には風景、都市景観、森林、公園、庭園、人工地盤、観光、映画ロケ地、遊芸、雨(天候)、清掃アートなど多様な現象をとりあげて分析し、その成果を『日常性の環境美学』(勁草書房、2012)として刊行した。

研究成果の概要(英文)：This project aimed to take the problems anew which have been discussed in the aesthetic theories of natural and urban environments and to reconsider them in terms of the aesthetic practices performed at various topoi of everyday life (Biotopes). They covered such aesthetic phenomena as natural and urban landscape, woods, parks, gardens, locations of cinema, whether, sightseeing tours, Japanese tradition of arts in private life, and a contemporary art of cleaning. As a result, a book *Nichijousei no Kankyo-Bigaku* (:The Environmental Aesthetics in Everyday Life, ed. by K. Nishimura, Keiso-Syobou, Tokyo, 2012) was published.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	9,100,000	2,730,000	11,830,000
2008年度	7,300,000	2,190,000	9,490,000
2009年度	7,300,000	2,190,000	9,490,000
2010年度	7,300,000	2,190,000	9,490,000
年度			
総計	31,000,000	9,300,000	40,300,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、美学・美術史

キーワード：自然、芸術、美的生活、環境、日本の芸術、都市、風景、旅行

## 1. 研究開始当初の背景

従来の美学はややもすれば芸術作品を中心

とする「もの」や「対象」の美学であった。

しかしわれわれ人間が日常生活をいとなむ

「トポス (場)」においてもさまざまな美的現象や美的経験が生じている。しかしこれらを生活場所の構造の全体においてとらえる試みはまだ十分にはなされていない。一方で、従来の自然美論、環境美学の問題点は、そもそもそれらが前提している「自然」や「風景」や「環境」というコンセプトがある種理念的で具体性に欠くことにある。

## 2. 研究の目的

それゆえ本研究は、従来自然美論、風景論、環境美学、都市の美学として研究されてきた考えかたに共通する原理的な問題点、つまりそもそもそれらがあらかじめ前提している

「自然」「風景」「環境」といったコンセプト自体があいまいで混乱していることを見極めた上で、新たなコンセプトを構築し、これにもとづいて、それら自然や風景、環境、都市といった生活の場所において日々営まれるさまざまな美的実践の有り様を、そのそれぞれの特殊性を浮かび上がらせる形で記述・分析することをめざす。

## 3. 研究の方法

20人の研究分担者の課題を(1)基本的コンセプトの原理的検証、(2)風景、庭園、森林、都市問って特定の自然環境にかかわる美的ふるまいの分析、(3)歴史的時間と場所のかかわりを、その場所に付着するパトスや記憶を問い、またそこを散歩しあるいは旅する行為の意味を問うことであきらかにする、(4)現代の音楽やアートにおける美的経験と環境の関係の解明、(5)劇場や撮影現場という芸術行為が発生する場に特有の美的共同体の構造分析、(6)日本における生活場所似根ざす美的なふるまいの分析、の6点に振り分けた。毎年数回ひらかれる全体会議以外にも、海外の研究者もふくめたゲストスピーカーをほぼ毎年招請し、かれらの講演と討議をつ

うじてあらたな方向性や可能性を探った。一方で、研究成果を国内の学会はもとより、海外で行われる国際会議の場でも発表することで、国内外に研究成果を発信することにつとめた。

## 4. 研究成果

研究会での研究成果の発表を基礎に、2007年7月にトルコ・アンカラで、また2010年に中国・北京でおこなわれた国際美学会議での発表、国内の美学学会例会や全国大会での発表、学会誌をはじめとするさまざまな雑誌での論文発表をつうじて、これまで日本ではあまり論じられてこなかった日常性の美学や環境美学に対する関心を喚起した。また2012年3月には研究成果を書籍(西村清和編『日常性の環境美学』、勁草書房)として出版したが、研究成果をひろく告知するべく、最終年度(2010年)の補助金の一部を「繰越金」として、これを多くの研究者に献本するために使用した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計65件)

①西村清和、「プラスチックの木でなにがかわるのか?——〈美的〉と〈倫理的〉をめぐる」、『美学芸術学研究 28』(東京大学美学芸術学研究室)、査読無、28巻、2010、141-177

②相澤照明、「ギルピンのピクチャレスク・ツアー—光と時間と植生のピクチャレスク—」(1)、佐賀大学文化教育学部研究論文集、査読無、第15集第1号、2010、99-110

③中川真、Socially Inclusive Cultural Policy and Arts-Based Urban Community Regeneration、Cities、Volume 27、Supplement 1、査読有、2010、16-24

④椎原伸博、「新しい公共性」と芸術、『カ  
リスタ』、17号、査読有、2010、85-89

⑤喜屋武 盛也「森林美学:美学芸術学の視  
点から」、『北方林業』、63(1)、査読有、2010、  
4-17

⑥津上英輔、運動を管理する音楽:服部正作  
曲<ラジオ体操第一>の分析、『成城美学美  
術史』、16号、査読無、2010、1-15

⑦尼ヶ崎彬、私芸術とインタラクティブ、『大  
航海』、NO. 70、査読無、2009、129-137

⑧外山紀久子、On Cleaning: a sober-minded  
mania, Proceedings of 4th International  
Symposium on Multi-Sensory Design,  
Steering Committee of International  
Symposium on Multi-Sensory Design、査読  
有、2009、20-43

⑨青木孝夫、山水美学の日本的受容と変容に  
ついて—隠逸的美学の展開と限界、『比較美  
学研究』、1巻、査読有、2009、1-7

⑩椎原伸博、生活世界(ビオトープ)として  
のdalle(人工地盤)、実践女子大学 美学美  
術史学、査読有、24号、2009、1-19

⑪津上英輔「感性的営為としての旅:観光美  
学の構築にむけて」、『美学』、査読有、232  
号、2008年、2-14

⑫渡辺裕、バナナの叩き売りの口上はいかに  
して「芸術」になったか、『大航海』、第70  
号、査読無、2008、86-93

⑬長野順子、「透かし絵」という魔法の鏡—  
—F. シンケルの劇場改革への道、『美学芸術  
学論集』神戸大学芸術学研究室、第4号、査  
読有、2008、1-19

⑭西村清和「文化概念としての自然」、『シェ  
リング年報』、査読有り、15号、2007、32-40

⑮上村博、芸術作品としての京都、『美術フ  
ォーラム21』、第17号、2007、52-55

⑯小田部胤久、Tsuneyoshi Tsuzumi, a  
Pioneer in Comparative Aesthetics, and

His Theory of 'Framelessness of Japanese  
Artistic Style': Toward Intercultural  
Aesthetics, International Yearbook of  
Aesthetics, vol. 11、査読有、2007、111  
-130

[学会発表] (計57件)

①外山紀久子 ars vivendi reclaimed: on  
the virtues of the body in 'neo-pre-  
Modernist' art practices, The 18th  
International Congress of Aesthetics,  
August 9, 2010, 北京大学(中国)

②安西信一「環境美学——鑑賞の正しさから  
歴史的多層性へ」、第60回美学会全国大会、  
2009年10月10日、東京大学

③安西信一 裂開する世界図絵——近代ヨ  
ーロッパ〈庭園〉表象における欲望・創出・  
媒介、19世紀学研究所主催、2011.3.10、  
新潟大学

④小田部胤久、Soetsu Yanagis Theorie der  
Volkskunst im Hinblick auf die  
Interkulturalität、Internationale  
Fachtagung an der Universität Würzburg、  
2009年7月26日、  
Julius -Maximilians-Universität Würzburg  
(ドイツ)

⑤中川真、サウンドスケープと都市デザイン、  
日本広告協会総会、2008年6月2日、京都  
宝が丘プリンスホテル

⑥渡辺裕、日本近代のなかの宝塚歌劇、国際  
シンポジウム「戦間期(1918-1938)大阪の  
音楽と近代」、2008年12月4日、国際日本  
文化研究センター

⑦渡辺裕「文学言説と都市の記憶——メディ  
アとしての文学散歩」、美学会東部会例会、  
2007年11月24日、宮城県美術館

⑧西村清和、'Nature' as a Cultural  
Concept, XVIth International Congress of

Aesthetics, 2007年7月10日、METU(Ankara, Turkey)

⑨津上英輔, Sense Perception for the Sake of Sense Perception: Toward Aesthetics of Tourism, XVIth International Congress of Aesthetics, 2007年7月10日、METU(Ankara, Turkey)

⑩大石昌史、Japanese Aesthetic Consciousness and the Logic of <Field>: An explanation of <mono-no-aware> [sympathy with things] through the dynamic psychic structure of relation and reversal、XVIIth International Congress of Aesthetics、2007年7月9日、METU (Ankara, Turkey)

⑪喜屋武盛也、もうひとつの環境美学としての森林美学の伝統、第58回美学会全国大会、2007年10月7日、北海道大学

⑫渡辺裕、文学言説と都市の記憶——メディアとしての文学散歩、美学会東部会例会、2007年11月24日、宮城県美術館

[図書] (計24件)

①西村清和編著、勁草書房、日常性の環境美学、2012、391ページ

②渡辺裕、中央公論社、歌う国民、2010、293

③山田忠彰、ナカニシヤ出版、エストーエティカ〈デザイン・ワールド〉と〈存在の美学〉、2008、340

④中川真、昭和堂、サウンドアートのトポス、2007、239

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

西村 清和 (NISHIMURA KIYOKAZU)  
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授  
研究者番号：  
50108114

### (2) 研究分担者

尼ヶ崎 彬 (AMAGASAKI AKIRA)  
学習院女子大学・国際文化交流学部・教授  
研究者番号：70143344

### (3) 研究分担者

長野 順子 (NAGANO JUNKO)  
神戸大学・文学部・教授  
研究者番号：20143344

### (4) 研究分担者

相澤 照明 (AIZAWA TERUAKI)  
佐賀大学・文化教育学部・教授  
研究者番号：50167764

### (5) 研究分担者

山田 忠彰 (YAMADA TADAAKI)  
日本女子大学・人間社会学部・教授  
研究者番号：10220386

### (6) 研究分担者

中川 真 (NAKAGAWA SIN)  
大阪市立大学・文学研究科・教授  
研究者番号：40135637

(7)研究分担者

渡辺 裕 (WATANABE HIROSHI)  
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授  
研究者番号：80167163

(8)研究分担者

津上 英輔 (TZUGAMI EISUKE)  
成城大学・文芸学部・教授  
研究者番号：80197657

(9)研究分担者

青木 孝夫 (AOKI TAKAO)  
広島大学・総合科学部・教授  
研究者番号：40192455

(10)研究分担者

外山 紀久子 (TOYAMA KIKUKO)  
埼玉大学・教養学部・教授  
研究者番号：80253128

(11)研究分担者

大石 昌史 (OISHI MASASHI)  
慶應義塾大学・文学部・教授  
研究者番号：60223723

(12)研究分担者

小田部 胤久 (OTABE TANEHISA)  
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授  
研究者番号：80211142

(13)研究分担者

安西 信一 (ANZAI SHINICHI)  
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授  
研究者番号：50232088

(14)研究分担者

椎原 伸博 (SHIIHARA NOBUHIRO)  
実践女子大学・文学部・教授  
研究者番号：20276679

(15)研究分担者

上村 博 (UEMURA HIROSHI)  
京都造形芸術大学・芸術学部・教授  
研究者番号：20232796

(16)研究分担者

木村 建哉 (KIMURA TATSUYA)  
成城大学・文芸学部・講師  
研究者番号：10313181

(17)研究分担者

上石 学 (KAMIISHI MANABU)  
聖心女子大学・文学部・講師  
研究者番号：70349166

(18)研究分担者

喜屋武 盛也 (KIYATAKE MORIYA)  
沖縄県立芸術大学・美術工芸学部・准教授  
研究者番号：10345241

(19)研究分担者

東口 豊 (HIGASHIGUCHI YUTAKA)  
九州大学・人文科学研究科・准教授  
研究者番号：70346740

(20)研究分担者

太田峰夫 (OTA MINEO)  
東京大学・大学院人文社会系研究科・助教  
研究者番号：00533952